（２） 敷地の現況

１） 既存民間施設

① 日本平ホテル

2012（平成 24）年９月に全面改装し再オープンした。これに併せ、ホテル駐車場及び建物前の芝庭を再整備が行われ、日本平公園の新たな集客・宿泊施設として利用されている。

＜敷地面積＞75,769.13 ㎡

＜建築面積＞ 6,153,43 ㎡

＜延床面積＞18,678.62 ㎡

＜構　　造＞鉄骨鉄筋コンクリート造、鉄骨造および鉄筋コンクリート造
地下１階、地上６階

＜建築概要＞80 室の客室、5 つの宴会場、4 つの料飲施設、挙式場、スパ等から成る。4 万㎡超の緑化保全、オール電化等、CASBEE 静岡で S ランクを取得。「民間拠点施設整備事業」の国土交通大臣認定を受けた。



北面外観



ラウンジからの景観

② 日本平ホテル新レストラン棟「ガーデンコート」

2022（令和４）年４月 27 日に、ホテル棟東の一角で新たなレストラン棟をオープンした。

＜建築面積＞ 297.29 ㎡

＜構　　造＞鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造
地上２階

＜建築概要＞１階に鉄板焼きレストラン、２階にカフェレストランを営業。全ての客席から観富の眺望を満喫しながら飲食を堪能する事ができるよう計画。



北面外観



店内

③ 日本平ロープウェイ駅舎「門前の恵みたいらぎ」

2021（令和３）年３月 28 日にパークセンターを全面改装し再オープンした。これに併せて駐車場、トイレ、植栽地等の再整備が行われ、久能山と日本平をつなぐ拠点のリニューアルが図られた。また、翌年の 2022（令和４）年２月 25 日に当該施設内にレストラン「はなあおい」がオープンした。

＜敷地面積＞25,449.30 ㎡

＜建築面積＞ 332.06 ㎡

＜構　　造＞地上２階

＜建築概要＞１階がロープウェイ日本平駅の待合室、トイレ、通路で、２階に土産物店と飲食店が入っている。



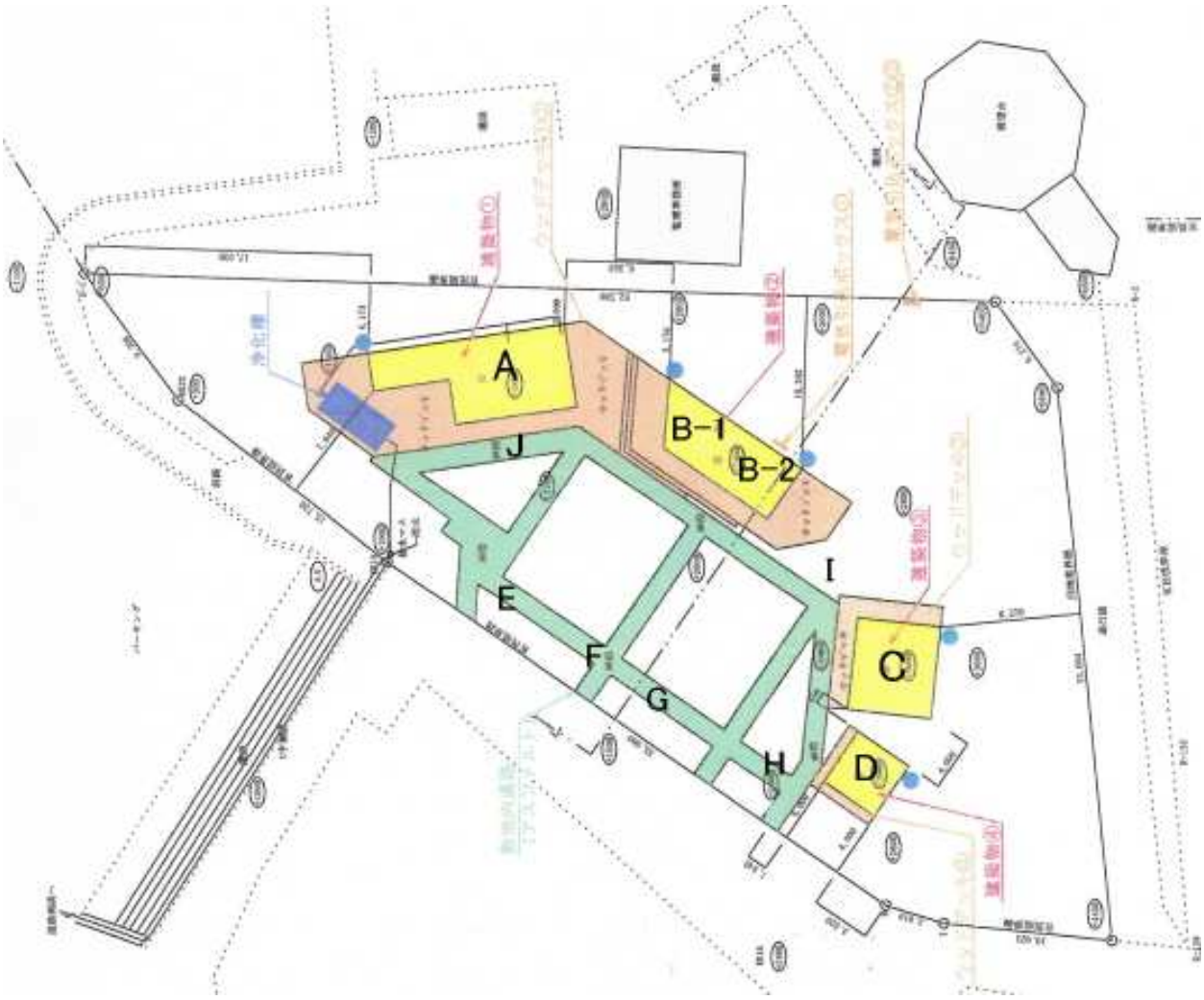
日本平ロープウェイ駅舎駐車場側外観



ロープウェイ駐車場

④ ガーデンマルシェ日本平

東展望台下の花壇跡地の平地に、2023（令和 5）年に新たに整備された期間限定の貸店舗。4 棟の建物に 13.25 ㎡～46.78 ㎡と大きさの異なる 5 つの区画と広場から成り、公募による出店希望者が期間を限定（30 日～11 ヶ月）して飲食店や物販店などを出店する。また、敷地内の広場は、マルシェやキッチンカーでの出店が可能。







⑤ その他の民間施設

その他の現在の飲食物販等民間営業施設は、下表のとおりである。

施設名	築年	上段：構造 下段：階数	建築面積 床面積	席数等	利用形態	経営状況
清水屋 （月日星）	1955（昭 30） 2003（平 15） 改築	S 造 地上 2 階	432.53 883.40	物販：約 350 ㎡ 飲食：400 席	飲食・物販	物販の方が多い 団:個＝10:1　飲食は昼のみ
川崎屋	1957 （昭 32）	RC 造・S 造 地上 2 階	924.00 1,847.00	物販：約 600 ㎡	物販	現在は縮小経営
手もみ茶 保存会館	1967 （昭 42）	S 造 地上 1 階	387.14 387.14	体験：60 校/年 Max200 人/回	体験農園 物販	公園整備に伴い移転撤去 予定



清水屋（月日星）



川崎屋



手もみ茶保存会館

2） 公園施設

① 平原エリア

事業予定地の南東に位置するまとまった空間で最も平原らしい地形形質にあり、特に富士山方向の雄大なパノラマ景を望むことのできるエリア。本地の特徴でもある茶畑が良好な景観を創出している。

一方で、荒廃した粗放農地や樹木等が散在し景観の阻害要素となっているため、改善が必要。また、パークウェイの改良による路線変更に伴い、手もみ茶保存会館（民間施設）の移転が必要になる。

＜整備方針＞

「来園者に「日本平」をイメージさせる広々とした空間で展望を満喫できる広場」

・郷土景観である茶園を風景の一部に取り込む
・レクリエーションやイベントに対応する大芝生広場として整備
・既存手揉み茶保存会館の機能を拡充し、茶の体験を担う施設を配置
・景観に変化を持たせた回遊園路を整備

＜主な施設＞

・大 芝 生 広 場：富士山方向に緩やかに下り、起伏を持った広大な芝生広場
・体　験　茶　畑：現在の体験茶畑の機能を継承（範囲を変更）
・景　観　茶　畑：大芝生広場の最下段を隣接する茶畑に連続する茶畑として整備
・散　　策　　路：アクセス道路に沿ってススキ等のグラス類を主体とした庭園空間にバリアフリー歩行路を兼ねた遊歩道を整備し、日本平ホテル方向からの歩行空間を演出

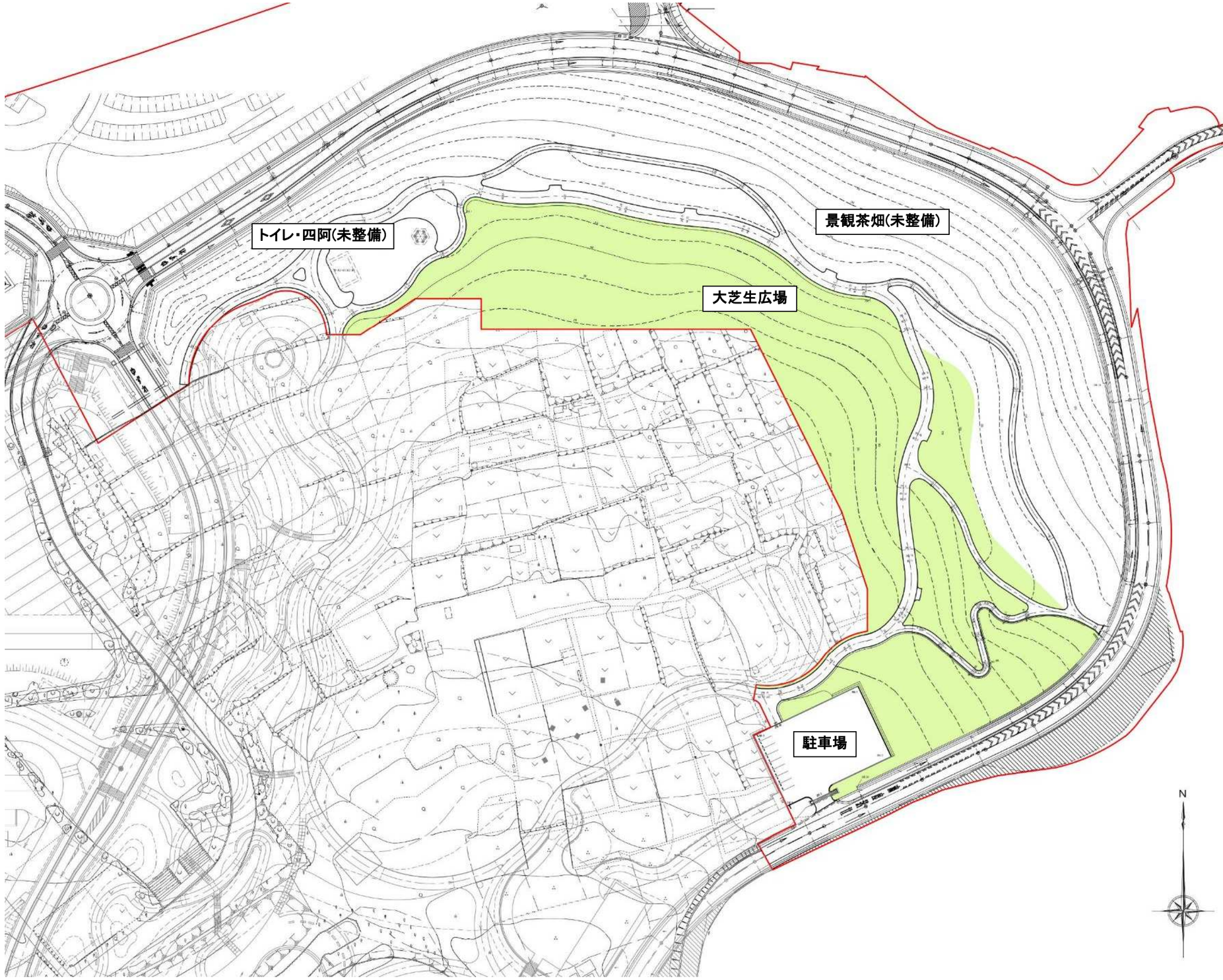
＜整備の状況＞

大芝生広場の下側４分の１程度が整備・開園済み。併せて園路、体験茶畑用の駐車場及び４箇所の調整池、雨水排水施設、園内灯等が整備されている。





図. 平原エリア現況図



② 展望の丘エリア

計画地で最も標高の高く、徳富蘇峰の展望史跡のひとつである吟望台を山頂に、北西から北東にかけて下る傾斜地で、良好な眺望地を形成している。

一方で、樹木による富士山の眺望阻害、傾斜がきつくバリアフリールートの設定が困難、鐘秀台への通路が不通といった、ルート確保等の課題があり、散在する展望地を回遊する安全なルート形成が求められる。

＜整備方針＞

「名勝日本平の展望を象徴する吟望台を頂点とした風情と趣のある園地」

・周辺樹林の整理による展望の確保
・斜面地を利用した新たな緑の名所づくりと園路、植栽、便益施設などの環境整備
・新バリアフリー法に準拠した障害者や高齢者も登坂可能な歩きやすい散策歩行路の整備
・山頂部の雨天時の休憩所を兼ねた、四囲を見渡せる展望施設の整備

＜主な施設＞

・吟望台（再整備）：既存の吟望台を残し、周囲の園地を再整備
・日本平夢テラス：本公園のメイン施設となる展望、休憩、展示、飲食、トイレ等の（展望施設・展望回廊）機能を併せ持つ複合建物と、四周眺望に資する回遊デッキ
・展望の丘：山頂部のまとまった休憩芝生広場
・斜面を利用した休憩・：雑木や花木類を主体とした疎林斜面地とバリアフリー歩行路を兼ね
散策疎林園地　　た散策遊歩道

＜整備の状況＞

吟望台並びに室内型展望・休憩施設を中心に、エリア内山頂部と日本平ロープウェイ側の斜面地のほぼ全てが整備・開園済み。その他、水道配水池が整備の他、日本平ロープウェイ駐車場（第２駐車場）から吟望台へのバリアフリー園路の整備を予定している。





左:展望芝生広場・日本平夢テラス
右:吟望台



第2駐車場～山頂部バリアフリー園路



管理用通路

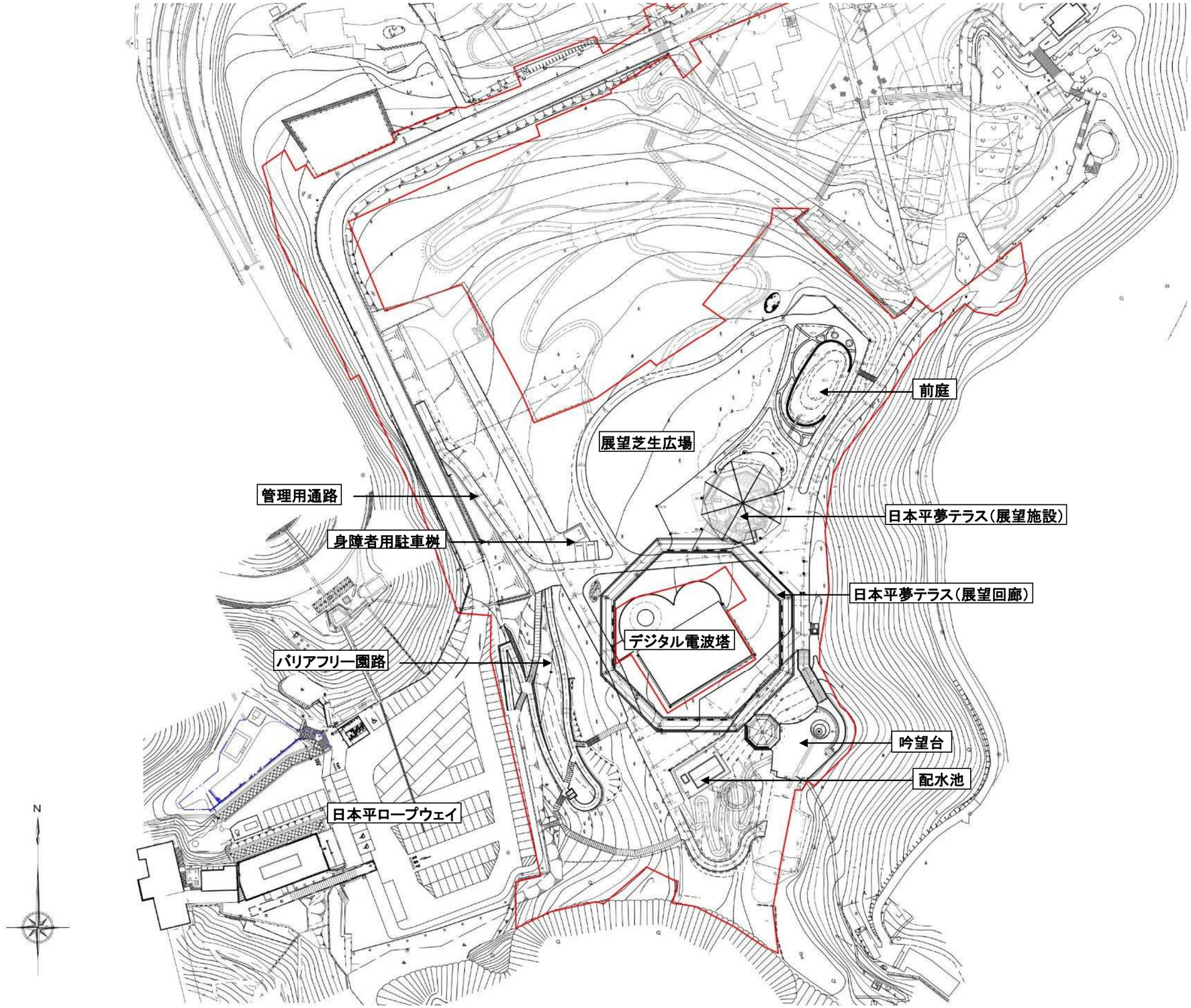


山頂部身障者用駐車桝



配水池

図. 展望の丘エリア現況図



③ 第3駐車場

第１駐車場からパークウェイをはさんで南側に位置する駐車場。南北方向で１０m程度（最大で約１５m）の比高差があるため、駐車桝の配置や動線処理に工夫が必要になる。

＜整備方針＞

「パークウェイからの景観と安全性に配慮した駐車場」

・駐車場範囲の比高差をできるだけ小さくするため、パークウェイから下がった位置に駐車スペースを確保。パークウェイとの落差は擁壁で解消
・駐車スペースは南北方向にひな壇式の駐車桝の配置とし、土留めウォールと植栽帯により落差を解消
・パークウェイと駐車スペースの間を可能な限り広く取り、植栽によりパークウェイ沿道の景観を演出
・必要照度の確保により、夜間利用に対応
・駐車場利用者のためのトイレを設置

＜主な施設＞

・駐車場：公園全体の駐車整備台数から２３４台（内、身障者用５台）の駐車桝を確保
・照明灯：斜路部で 10lx、駐車場全域で 2lx 以上の照度を確保するための照明灯を設置
・トイレ：男子/小-3、大-1・女子/3・多目的/１のトイレを設置

＜整備の状況＞

トイレを除き全てが整備・開園済み。その他、駐車場南側に第１調整池を整備済みである。





図. 第3駐車場現況図



④ 日本平夢テラス（展望施設）

本施設は、本公園内で最も展望に優れた立地性を活かし、今後の増加が見込まれる国内外からの観光交流客を受け入れ、日本平の魅力や価値を伝える施設として整備された。そのため、①いつ訪れても四囲の絶景を味わうことのできる全天候型施設（展望機能）、②日本平の歴史的、文化的価値をわかりやすく伝える情報発信（展示機能）、③時間をかけゆったりと眺望を楽しむことのできるくつろぎ空間（ラウンジ）や日本平周辺の観光情報提供（コンシェルジュ）、国内外賓客との交流・迎賓機能（ゲストルーム）から成る施設とした。

＜展望施設の概要＞



＜施設概要＞

・施設規模は、園内施設との機能分担を明確にし、名勝日本平の保存と活用に必要な機能と規模を兼ね備える一方で、景観に配慮し可能な限りコンパクト化に努める。

・施設配置は、駐車場等の主エントランスからのアクセス性やデジタル電波塔の機能障害を勘案し、電波塔北側の緩傾斜地の配置とし、外景観に配慮した建物高を設定する。

・わが国の伝統工法である木組みを基調とした和の意匠とし、壁面はガラスによるスケルトンとすることで展望機能を高め、同時に周囲の緑地環境に馴染ませた建築とする。

●建築面積：958.38 ㎡

●床面積：973.55 ㎡（内訳：１階－展示エリア・総合案内：327.12 ㎡／２階－ラウンジ（カフェ）：287.67 ㎡／３階－展望フロア：358.76 ㎡）

●構　　造：鉄骨造一部小屋組木造　外壁－ALC の上県産材杉板張、一部目隠し壁アルミルーバー（仕上げ色は茶系）　屋根－カラー鋼板葺き（仕上げ色は濃灰系）
地上３階建て



外観



内観



１階展示エリア



２階ラウンジ(カフェ)



３階展望フロアからの富士山景

⑤ 日本平夢テラス（展望回廊）の概要

吟望台と日本平夢テラス（展望施設）をつなぎ、吟望台の地盤高でデジタル電波塔外周を周遊する四周眺望のためのデッキ園路。吟望台の価値（四周眺望）を補強し、名勝日本平の本質的価値を高めるものとした。歩きながらの眺望だけでなく、十分な幅員（約 4.6m）を持たせることで各々の場所で立ち止まったり座ったりできる構造としている。

併せて展望回廊の一部、吟望台と接する箇所は、夢テラスの八角形の意匠を取り入れた小広場スペース(杜のひろば)とし、散策の休憩スポットや景観のアクセントとしての機能を持たせた。

また構造意匠は、展望施設意匠との統一性を持たせた木組みを基調とする和の意匠とすることによって、デジタル電波塔塔屋の景観的ボリューム感を緩和し、デジタル電波塔を含む山頂エリア全体の空間及び意匠の調和を図るものとした。さらに、展望回廊を鉄骨による橋構造とすることで、回廊を支える脚部のボリュームを抑え、眺望の阻害を最小限とし、周囲の景観との調和を図ることに貢献している。

＜展望回廊＞

●建築面積：862.84 m2／延長：188.05m

●構　　造：鉄骨造一部床組木造　外壁－目隠しルーバー（市産材ひのき)、ガラス手すり
床－人工木デッキ材

＜杜のひろば＞

●建築面積：102.17 m2

●構　　造：鉄骨造　外壁－目隠しルーバー（市産材ひのき)、ガラス手すり
床－人工木デッキ材



展望回廊



杜のひろば



展望回廊下部

⑥ 前庭の概要

夢テラスの富士山側に名勝日本平の自然的要素である植栽や自然林の保存に配慮しつつ、現地の植生を活かした前庭を整備。日本平の植生に十分配慮しながら、和を感じられる植栽により常に四季折々の花が咲き、花に囲まれながら散策できる庭園のような空間を目指した。

また、風景美術館の１作品として、夢テラスの１階からの眺望に変化をもたらす、富士山を遠景に、その前景として富士山が生命にもたらす力を表現した現代的な枯山水による庭（“源”）を整備した。

●面　積：1,202.00 ㎡

●植　栽：高木：ナラノヤエザクラ、シダレザクラ、モミジ、マツ、ツバキ、ウメ等
低木：混植
地被：混植
芝生：コウライ芝

●外構他：透水性自然石洗出コンクリート舗装、御影石ボーダー貼、景石、既存石碑の移設、木製ベンチ



前庭



前庭“源”

⑦ その他

〇東展望台・公園管理事務所

清水屋（月日星）の南側の高台に位置する東展望及び、ここに至る園路、階段園路、トイレ（県事業により改修済み）、管理事務所（静岡県）と植栽地は既存のままの継続とし、新計画とのすり合わせを図る。但し、管理事務所は、公園センターの整備時に撤去するものとする。



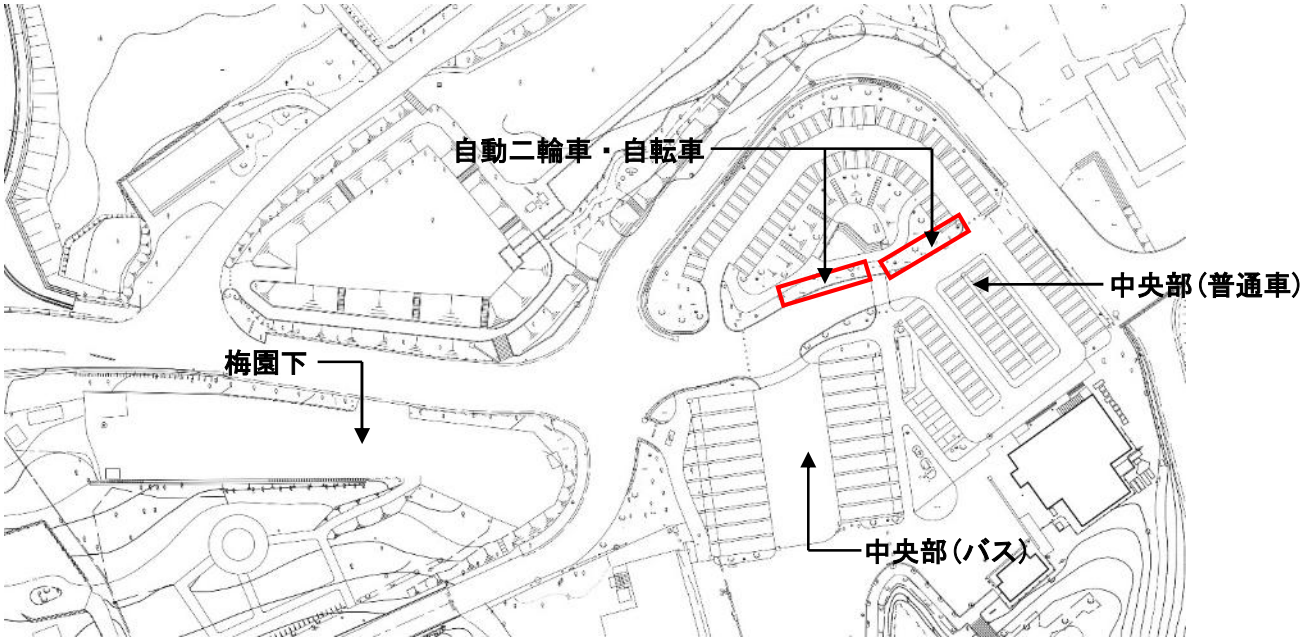
東展望台



公園管理事務所

○県駐車場・旧日本平ホテル駐車場

公園中央部及び梅林下に県立自然公園の駐車場が整備されている。駐車台数は普通車 150 台、(中央部 96 台、梅林下 54 台)、身障者用 4 台、バス 20 台で、歩車道部等の改修と併せ、自動二輪車用駐車スペースと駐輪スペースが整備されている。





県駐車場(中央部)



自動二輪車駐輪スペース・駐輪スペース



県駐車場(梅園下)

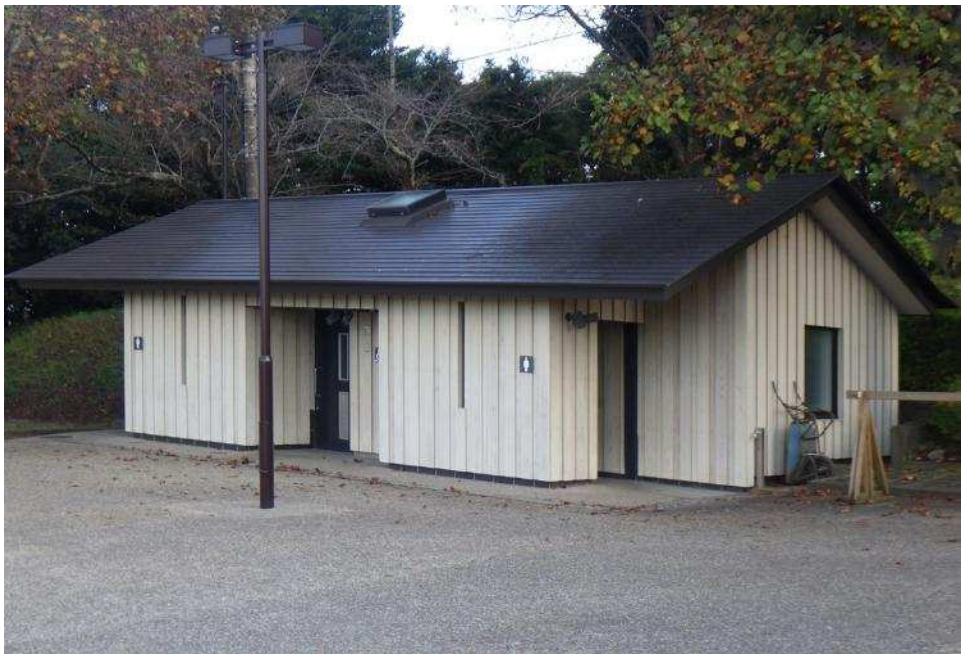
また、日本平ホテル駐車場を公園駐車場として暫定利用している。





○県駐車場トイレ

山頂部の整備に伴い、現在の県駐車場トイレはリニューアルが図られており、本計画では存地として位置づける。



図．現況航空写真（2020（令和 2）年県オルソ画像加工）

